

### グローバル人材育成プログラムを終えて

村上 勇介  
Yusuke MURAKAMI  
機械システム工学科 3年

#### 1. はじめに

まず、今回の海外インターンシップに参加した志望動機について書かせていただきます。これまで日本で育ってきた自分にとって、今後よりグローバル化が進む世界で通用するためにはもっと豊かな経験と広い視野で物事を見る力が必要だと以前から感じていました。また日本とは異なる文化、人々、風土に見て、触れて、感じることで自分の中で今後役に立つ様々なものが得られるのではないかとも思っていました。そしてこの海外インターンシップで外国の環境に身を置き、いろいろなことを発見・吸収したいと思い今回本プログラムを志望させていただきました。

#### 2. インターンシップ先企業様について

この実習でお世話になりました AKI AUTO SERVICE & BODY SHOP は、代表の日本人の方と、現地のメカニックの方の2名で経営されているアメリカのサンマテオ市にある自動車整備を主に行うショップです。お客様の実に8割が日本人の方で、ベイエリアでは日本人が営む修理と板金が出るショップがここ以外にサンフランシスコにしかなく、それ故にこのような利用者層となっているそうです。

#### 3. 実習内容

基本的に私自身はメカニックの方の作業を手伝ったり、工場内の清掃を行ったりしていました。例えば毎日大量の段ボールや使用後のオイルケースが出るため、それらをリサイクルに出す際少しでも嵩を減らすため段ボールをダイス状に小さくカットして

処分しました。またジャンパー（バッテリーが上がってしまった車のエンジンを始動させる為の機材）を用いてバッテリーが上がってしまった車の移動、整備が終了した車のミッション、エンジン双方のオイル量が適正かどうかのチェック、空気圧チェックなどを行いました。

今回お世話になった工場が一番気を付けていることは、ダブルチェックを欠かさないことです。お客様の車を第一に考え、ボルトがしっかりと適切に締められていることを二人でダブルチェックする、ホイールのナットを締めるときにも二回以上締め付けを確認する、など特に安全に直結するような箇所には気を遣って作業していました。

このことは、何も車だけに通用することではないと考えます。直接人命にかかわるような、あるいは構造上重要な部分はミスが無いように何度も確認を行わなければならない、またこの行為は単純な作業ですが、重要な作業であることを今回の海外インターンシップで改めて考えさせられました。

#### 4. ホストファミリー

今回お世話になったホストファミリーは、ご主人がドイツ人、奥様が日本人の方で、愛犬と一緒に暮らしていらっしゃいます。初日からサンフランシスコ観光に出掛けたり、毎晩おいしい夕食を準備して頂いたり、実に有意義かつ楽しい時間を過ごさせていただきました。また、ご主人がブルワリーカンパニー（地ビールの会社）を経営されており、ホームステイ中にビールの醸造体験をさせていただきました。そこでは、醸造するビールに合わせた原材料のモルトを計量・粉碎し煮たあと煮汁を抽出し、そこに苦味成分の粉末状になったホップを加えて更に煮て、凝固剤を用いてホップを取り除き、クーリングしながら貯蔵タンクへ移し、イースト菌を加えて若ビールとし、約1カ月熟成させる、といった工程でビールを作っています。ブルワリーでのビール造りは、私自身初めての体験であったため大変興味があり、実に楽しい作業でした。また、ブルワリーの方が1

つ1つの工程について詳しく教えて下さり、また疑問に思ったこと、もっと知りたいことは質問すると何でも教えて頂きました。この経験からアメリカでは自分の意思をしっかりと相手に伝えることが大切でそうした態度は好意的に受け止めてもらえる文化だと身を持って実感できました。このような日本とは大きく異なる社会の中で過ごせたことは貴重な経験であり、今後の自分の人生において有意義なものになると考えています。

## 5. 実習を通して感じたこと

本実習を通して感じたことは、アメリカは「対等な人間関係を重視する」、「自分自身の意思で行動する」文化だと感じました。例えば日本では、道に迷ってうろうろしていたら街の人から声を掛けられて道などを教えてもらえる、といったことはごく普通のことですが、アメリカでは相手に質問しないと何も始まりません。日本でよく見られる相手を思いやる文化は、それはそれで素晴らしいものだと思いますが、アメリカでは異なっているようです。

また、アメリカに来て改めて自身の英語力の無さに気付かされました。今までも英語を勉強してきましたが、現地の方と会話をしている中で言いたいことを表現するのに単語や慣用表現が分からず苦勞する、現地の方の会話のスピードについていけず相手が何について話しているのか理解するのに苦しむ、などといったことが度々ありました。単語や慣用表現、文法などももちろん重要ですが、それよりも会話のスピードに慣れるためにもっと実践的な対話形式での練習が今後私自身には必要だと思いました。

そしてこのような経験を踏まえた上で日本人として今まで気にすることの無かった「言葉の分かるありがたみ」が改めて分かりました。今後は日常ですれ違う人にもしっかりと挨拶をしたり、知らない方でも会話を試みたり、そういった方法で日本語も今よりもっと実践的に利用していきたいと考えています。

## 6. まとめ

今回のアメリカで過ごした18日間は短い期間ではありましたが、毎日が発見の連続で大変楽しく、有意義な日々を過ごすことが出来ました。またこのことは私自身の人生の中で大きな出来事でした。日本にいただけでは感じられない、学ぶことの出来ない様々なことを見て、触れて、感じる事が出来、忘れられない18日間になりました。加えて、このプログラムに参加したことによって今の私における英語力の課題を見つけることが出来たので、今後しっかりとその点を踏まえた学習を進めていきたいです。そしてこのプログラムで得た知識や経験を忘れずに、今後の学習面、キャリア形成などに生かしていければ、と考えています。

最後に、AKI AUTO SERVICE & BODY SHOPの皆さん、ホストファミリーの皆さん、ブルワリーカンパニーのスタッフの皆さん、Azusaさん、大学関係者始め今回のインターンシップに関係されておられた皆さんに改めて感謝の意を表します。貴重な経験の手助けをして下さり、本当にありがとうございました。